

厚生労働省
群馬労働局発表
平成26年5月1日

【照会先】
群馬労働局労働基準部健康安全課
課長 寺村 裕司
主任産業安全専門官 長谷川隆雄
課長補佐 桑原 茂
(電話) 027-210-5004

労働災害の発生状況について

－平成25年の労働災害が前年より増加－

厚生労働省群馬労働局（局長 内田昭宏）管内では、平成25年（1月～12月）の労働災害による休業4日以上死傷者数（以下「死傷者数」という。）は2,252人で前年に比べ48人増加（2.2%増加）、死亡者数は17人で前年に比べ1人減少しました。なお、全国の死傷者数は前年に比べ1.2%の減少（平成26年3月速報値）となっています。

また、平成26年第1四半期（1月～3月）の死傷者数及び死亡者数（いずれも速報値）は前年同期に比べ増加しています（死傷者数は482人で117人増加（増加率32.1%）、死亡者数は8人で7人増加）。

こうした状況を踏まえて、群馬労働局では、災害件数が全産業に占める割合の多い業種や労働災害が増加している業種に対して、重点的に災害防止の取組強化を促す対策を実施します。

1 平成25年の労働災害の発生状況（確定値）～死亡者数は減少、死傷者数は2年連続で増加～

平成25年1月から12月までの労働災害発生状況は、死傷者数が2,252人で前年に比べ48人増加（増加率2.2%）しました。

死亡者数は17人で前年に比べ1人減少しました。（図表1から図表5参照）

（1）業種別

ア 死傷者数が多い業種

業種	死傷者数	前年同期比増減数	増減率(%)	全産業に占める割合(%)
①製造業	727	-24	-3.2	32.3
				(製造業に占める割合)
食料品製造業	194	-8	-4.0	(26.7)
金属製品製造業	133	-3	-2.2	(18.3)
輸送用機械器具製造業	101	5	5.2	(13.9)
②交通運輸・貨物取扱業	309	17	5.8	13.7
道路貨物運送業	258	5	2.0	11.5
③建設業	279	14	5.3	12.4
建築工事業	157	-5	-3.1	7.0
土木工事業	69	13	23.2	3.1
その他の建設業	53	6	12.8	2.4
④卸売・小売業	262	32	13.9	11.6
小売業	232	33	16.6	10.3
全産業計	2252	48	2.2	100.0

イ 死亡者数

死亡者数を業種別にみますと、製造業8人、建設業4人、畜産・水産業1人、通信業1人、接客
 娯楽1人、清掃・と畜業1人、警備業1人で合計17人となっています。

(2) 事故の型別の状況

ア 全産業

年	型別	転倒	はさまれ 巻き込まれ	墜落・転落	その他	合計
	全産業(人)	508	378	365	1,001	2,252
	割合(%)	22.6	16.8	16.2	44.4	100.0
	前年増減比(%)	15.5	4.1	8.6	-6.0	2.2

イ 死傷者数が多い業種

年	型別	転倒	はさまれ 巻き込まれ	墜落・転落	その他	合計
	製造業(人)	127	228	65	307	727
	割合(%)	17.5	31.4	8.9	42.2	100.0
	前年増減比(%)	15.5	1.3	8.3	-13.8	-3.2
	交通運輸・貨物取扱業(人)	62	44	81	122	309
	割合(%)	20.1	14.2	26.2	39.5	100.0
	前年増減比(%)	24.0	4.8	17.4	-6.9	5.8
	建設業(人)	27	35	100	117	279
	割合(%)	9.7	12.5	35.8	41.9	100.0
	前年増減比(%)	-27.0	52.2	38.9	-12.0	5.3
	卸売・小売業(人)	88	15	23	136	262
	割合(%)	33.6	5.7	8.8	51.9	100.0
	前年増減比(%)	35.4	-25.0	-28.1	20.4	13.9

(3) 年齢別の状況

ア 全産業

業種	年齢	～19歳	20～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計
	全産業(人)	51	309	384	513	505	490	2,252
	割合(%)	2.3	13.7	17.1	22.8	22.4	21.8	100.0
	前年増減比(%)	24.4	-4.0	-3.3	10.1	-1.4	5.2	2.2

イ 死傷者が多い業種

業種	年齢	～19歳	20～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計
	製造業(人)	16	102	154	175	145	135	727
	割合(%)	2.2	14.0	21.2	24.1	19.9	18.6	100.0
	前年増減比(%)	33.3	-24.4	9.2	8.0	-9.9	-3.6	-3.2
	交通運輸・貨物取扱業(人)	2	26	55	87	92	47	309
	割合(%)	0.6	8.4	17.8	28.2	29.8	15.2	100.0
	前年増減比(%)	-33.3	18.2	-17.9	1.2	33.3	4.4	5.8
	建設業(人)	14	48	46	58	46	67	279
	割合(%)	5.0	17.2	16.5	20.8	16.5	24.0	100.0
	前年増減比(%)	75.0	20.0	-8.0	7.4	-2.1	1.5	5.3
	卸売・小売業(人)	5	39	35	55	63	65	262
	割合(%)	1.9	14.9	13.4	21.0	24.0	24.8	100.0
	前年増減比(%)	-28.6	34.5	-12.5	61.8	-20.3	58.5	13.9

(4) 経験年数別の状況

経験年数別	1年以内	1年超～3年以内	3年超～5年以内	5年超～10年以内	10年超～30年以内	30年超	合計
死傷者数	720	385	250	352	458	87	2252
全体に占める割合(%)	32.0	17.1	11.1	15.6	20.3	3.9	100.0
前年同期比(%)	5.9	1.9	10.1	-8.3	2.9	-3.3	2.2

2 平成26年第1四半期の労働災害の発生状況（速報値）

平成26年第1四半期（1月～3月）の労働災害発生状況（速報値）は、死傷者数が482人、死亡者数が8人となっています。

死傷者数は前年同期に比べ117人増加しており、増加率は32.1%で、全国平均の増加率7.7%を上回っており、当局管内の平成11年以降の同期の状況と比較すると最多となっています。

これは、災害の型別でみると、「転倒」が196人で前年同期に比べ89人増（増加率83.2%）であり、そのうち、雪による「転倒」が119人で前年同期に比べ88人増（増加率283.9%）で死傷者数全体の24.7%を占めています。また、「墜落・転落」が80人で前年同期に比べ21人増（増加率35.6%）であり、そのうち、雪による「墜落・転落」が10人で前年同期に比べ9人増（増加率900%）で死傷者数全体の2.1%を占めており、平成26年2月9日の降雪と同月14日の記録的大雪の影響が大きいと考えられます。

死亡災害を業種別にみると、建設業3人（前年同期比2人増）、商業2人（同2人増）、製造業1人（同1人増）、運輸交通業1人（同1人増）、娯楽接客業1人（同1人増）であり、当局管内の平成18年以降の同期の状況と比較すると最多となっています。（参考：平成25年の死亡者数の1～3月が1人、4月～6月が4人、7月～9月が7人、10月～12月が5人であり、平成26年は1月～3月が8人です。）

3 労働災害の増加に対する対策の実施

群馬労働局では、平成24年と25年の2年連続で死傷者数が増加したことや平成26年度第1四半期が増加していることから、災害が多い業種及び増加した業種に対して重点的な安全衛生指導の実施のほか、関係団体への要請等の取組を実施しています（下記の【具体的な取組事項】参照）。

【具体的な取組事項】

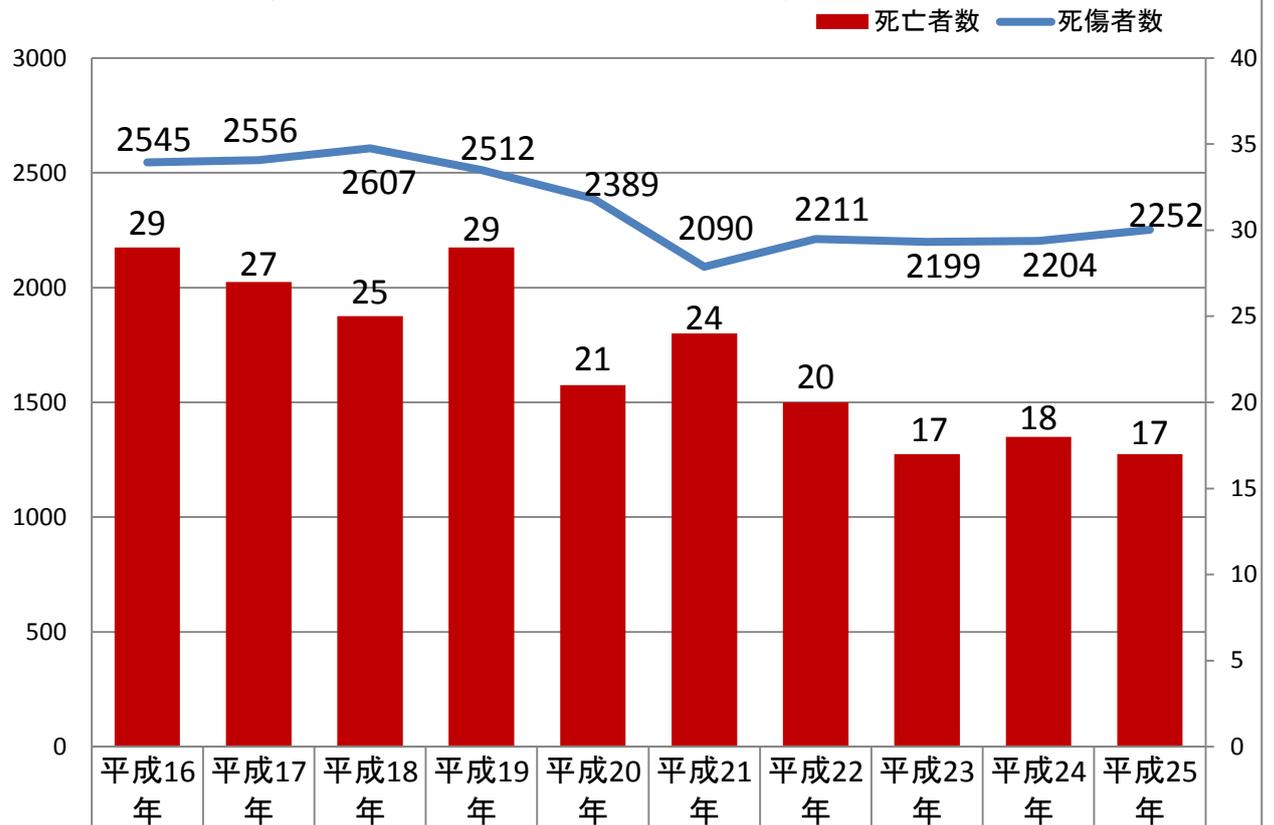
- ① 群馬県建設業協会長及び建設業労働災害防止協会群馬県支部長に対して労働局長から要請書の交付（2月3日）
- ② 群馬県トラック協会長及び陸上貨物運送業労働災害防止協会群馬県支部長に対して労働基準部長から要請書の交付（3月6日）
- ③ 太田商工会議所に対して健康安全課長が労働災害防止の講習会を実施(2月14日)
- ④ 群馬労働基準協会連合会長に対して労働基準部長から要請(4月2日)
- ⑤ 群馬県木材協働組合長及び林業・木材製造業労働災害防止協会長に対して労働基準部長から要請(4月7日)
- ⑥ 群馬県社会保険労務士会長に対して労働基準部長から協力要請(4月14日)
- ⑦ 群馬県内の労働基準協会長(11会長)に対して労働基準部長から要請(4月21日)
- ⑧ 日本労働安全衛生コンサルタント会群馬支部長に対して健康安全課長から協力要請(4月22日)
- ⑨ 建設荷役車両安全技術協会群馬県支部に対して労働基準部長から要請(4月25日)

- ⑩ 群馬労働災害防止団体連絡協議会長に対して労働基準部長から要請(4月25日)
- ⑪ 経営者4団体(群馬県経営者協会、群馬県中小企業団体中央会、群馬県商工会議所連合会、群馬県商工会連合会)に対して要請(5月予定)
- ⑫ 災害防止関係団体(7団体)の代表者に対して要請(5月予定)
- ⑬ 労働組合(連合群馬)の安全衛生学習会にて講演と協力要請(6月予定)
- ⑭ 「群馬県安全衛生労使専門家会議」(※)を6月に開催予定(例年は秋以降に開催していたものを前倒し)

(※ 「群馬県安全衛生労使専門家会議」とは、現場実態に精通した外部専門家8名(労働組合が推薦する者及び使用者団体が推薦する者の各4名と産業保健分野に精通した医師1名及び労働安全・衛生コンサルタント1名)を構成員として、地域における労働災害防止対策、労働者の健康確保対策の進め方等について意見を聴取し、その結果を群馬労働局が策定する安全衛生に係る諸対策等に反映させるための会議です。)

図表1

労働災害発生状況(確定値)



死亡者数	29	27	25	29	21	24	20	17	18	17
死傷者数	2545	2556	2607	2512	2389	2090	2211	2199	2204	2252

※死亡者数は死傷者数の内数です。

※平成22年より、脳・心臓疾患、精神疾患の死亡者数を含みます。

図表2

平成25年 労働者死傷病報告受理件数表

平成26年3月末確定
群馬労働局

業種別	署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
製造業		2	2		3			1	8	2	6
		131	267	36	225	15	45	8	727	751	-24
食料品製造業		45	84	6	40	7	11	1	194	202	-8
窯業土石製品製造業		7	10	1	10	1	2		31	30	0
金属製品製造業		1	47	10	42	1	12	2	133	136	-3
輸送用機械製造業		10	28	7	53	0	3	0	101	96	5
鉱業		2	0	1	0	1	0	0	4	1	-1
		65	85	16	69	13	17	14	279	265	14
建設業		2			1		1		4	5	-1
その他建設業		11	18	3	16	1	1	3	53	47	6
木造家屋等建築工事		13	18	3	9	3	1	3	50	62	-12
交通運輸・貨物取扱業		56	142	15	80	7	7	2	309	292	17
道路貨物運送業		45	123	14	64	5	6	1	258	253	5
林業		6	4	7	0	0	6	1	24	33	-9
上記以外の事業		212	321	74	160	57	37	48	909	861	48
卸売業		9	12	0	7	0	1	1	30	31	-1
小売業		59	84	17	45	10	10	7	232	199	33
通信業		23	19	11	8	2	2	2	67	68	-1
医療保健業		9	18	3	4	1	4	3	42	55	-13
社会福祉施設		22	31	15	12	5	4	3	92	90	2
旅館・ホテル業		5	15	1	0	5	1	14	41	28	13
その他接客娯楽業		11	20	4	7	14	3	1	60	55	5
清掃・と畜業		18	39	8	20	4	1	2	92	111	-19
計		4	3	1	6	1	1	1	17	18	-1
		472	819	149	534	93	112	73	2,252	2,204	48
前年同期		3	8	1	3	2	1		18		
		458	820	154	507	112	95	58	2,204		
増減		1	-5	0	3	-1	0	1	-1		
		14	-1	-5	27	-19	17	15	48		

- 注1 この表は、死亡及び休業4日以上労働者死傷病報告を集計しています。
 注2 各項目の下欄は死傷者数合計、上欄は死亡者数で下欄の数の内数です。
 注3 前橋署欄は、伊勢崎分庁舎と合算した集計です。

図表3

平成25年 死亡災害発生状況

平成26年3月末確定

群馬労働局

業種 \ 年	23年	24年	25年	対23年比	対24年比
製造業	4 ()	2 ()	8 ()	4 (0)	6 (0)
鉱業	()	1 ()	()	0 (0)	-1 (0)
建設業	4 ()	5 ()	4 ()	0 (0)	-1 (0)
交通運輸業	2 (1)	3 ()	()	-2 (-1)	-3 (0)
貨物取扱業	()	()	()	0 (0)	0 (0)
林業	1 ()	2 ()	()	-1 (0)	-2 (0)
その他	6 ()	5 ()	5 ()	-1 (0)	0 (0)
計	17 (1)	18 ⁰ (0)	17 ⁰ (0)	0 (-1)	-1 (0)

※ () の件数は、脳・心臓疾患，精神障害を内数で表す。

平成25年死亡災害事例（建設業以外） 図表4

（脳・心臓疾患、精神障害を除く）

平成26年3月末確定
群馬労働局

番号	災害発生日 発生時刻 労働者数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別	署別
1	5月 9時頃 120人	40歳代 男 作業員	3名で機械装置(高さ1.78m、幅1.84m、奥行き0.55m、重量700Kg)の撤去をするため、ジャッキアップしたところ、機械装置が倒れて1名が下敷きになり死亡した。	プラスチック製品製造業	崩壊・倒壊	その他の装置・設備	前橋
2	5月 9時頃 39人	20歳代 男 作業員	搬送機の駆動部のチェーンの張り具合調整中、回転中のシャフトに衣服が巻き込まれ、負傷し、療養していたが、8ヵ月後に死亡したものの。	畜産業	はさまれ・巻き込まれ	動力伝導機構	前橋
3	6月 11時頃 16人	50歳代 男 作業員	コンクリートの塊を破碎する装置の稼働中、圧碎部にはさまれている被災者が発見されたものの。	産業廃棄物処理業	はさまれ・巻き込まれ	混合機・粉碎機	太田
4	6月 11時頃 18人	60歳代 男 作業員	工場内で作業していた被災者が、何らかの事由により転倒した。その際に後頭部を強打して頭蓋骨を骨折し、7日後に収容先の病院で死亡したものの。	鋳物業	転倒	不明	高崎
5	7月 18時頃 200人	30歳代 男 作業員	プレス機の自動送り出し装置にコイルをセットする作業中、コイル台から重さ550kgのコイルが被災者の頭部に落下したものの。	自動車・同付属品製造業	飛来・落下	金属材料	太田
6	7月 5時頃 30人	20歳代 男 作業員	樹脂原料を混合するミキサー(直径1m、深さ1m)の清掃をしていた被災者が、ミキサー内で意識不明の状態で見送されたものの。	無機・有機化学工業製品製造業	分類不能	分類不能	太田
7	8月 2時頃 45人	30歳代 男 作業員	敷地内でアームロール式コンテナ(重量2.7t)をフォークリフトでけん引していたところ、フォークリフトが横転し、運転していた被災者が同機の下敷きになったものの。	無機・有機化学工業製品製造業	転倒	フォークリフト	太田
8	8月 15時頃 2人	60歳代 男 誘導員	片側1車線の道路上にて電気工事のため、同道路を片側交互通行の交通誘導をしていた被災者が通行車両のトラックにはねられて死亡したものの。	警備業	交通事故	トラック	桐生
9	9月 13時頃 2人	40歳代 男 プレス工	動力プレス機械(80t)で金属パイプに穴あけ作業中、金属屑が金型内にはさまってしまい、正常に稼働しない状態で上型が下降したため、金型の一部が破損・飛散して被災者の腹部等を損傷したものの。	金属製品製造業	飛来・落下	プレス機	高崎
10	10月 4時頃 300人	50歳代 男 作業員	全自動の水平・垂直搬送装置(コンベア)において、装置内の床に落ちた用具を拾おうとして上半身を入れたところ、下降してきた垂直搬送機に胸部をはさまれたものの。	食料品製造業	はさまれ・巻き込まれ	コンベア等	前橋

11	11月 17時頃 20人	40歳代 男 作業員	軽トラックで村道を走行中、積雪により脱輪して左側斜面11m下に滑落し、上半身を強打したものの。	旅館業	交通事故	トラック	沼田
12	12月 13時頃 3人	60歳代 男 作業員	機械装置の修理作業中、端材をチップにする機械を足掛かりに昇降していたところ、転落して頭部を負傷したものの。	製材業	墜落・転落	その他の木材加工用機械	中之条
13	12月 17時頃 126人	20歳代 男 外務員	配達用の自動二輪車で県道を走行中、わき道から出てきた軽自動車に追突・投げ出され、胸や腹を強く打ち死亡したものの。	通信業	交通事故	バイク	太田

平成25年死亡災害事例（建設業）

（脳・心臓疾患、精神障害を除く）

平成26年3月末確定

群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 店社人数・現場人数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	発注者	事故の 型別	起因物別	署別
1	3月 8時頃 20人・8人	40歳代 男 配管工	高さ約4.5mの足場へ上るため、アルミ製のはしごを昇っていた被災者がはしごから転落し、頭部を負傷して収容先の病院で死亡したものの。	民間	墜落・転落	はしご等	高崎
2	8月 7時頃 2人・1人	40歳代 男 責任者	建物改築工事において、建築資材脇に倒れている被災者を発見した。被災者は何らかの理由により、4階の窓から墜落したと思われる。	市	墜落・転落	建物等	高崎
3	9月 12時頃 6人・1人	60歳代 男 オペレーター	石積作業を1人でしていた被災者が石の運搬のため坂道をドラグ・ショベルで走行していたところ、路肩の段差により転倒し、同機の下敷きになったものの。	民間	転倒	ドラグ・ショベル	藤岡
4	10月 10時頃 2人	40歳代 男 防水工	防水工事において、移動のためにスレート屋根上を歩行していたところ、スレートを踏み抜いて約16m下に墜落したものの。	民間	墜落・転落	屋根	太田

図表5

年別・事故の型別の労働災害発生件数

- 墜落・転落
- 転倒
- 飛来・落下
- 激突され
- はさまれ・巻き込まれ
- 切れ・こすれ
- 交通事故(道路)
- 動作の反動・無理な動作
- その他

